

鹿による被害
 ・森林被害面積（令和元年度）
 全国で3,469ha（北海道は1,394ha）
 ・農作物被害（平成30年度）
 全国で53億円（北海道は約37.3億円）

適切な個体数の維持による森林保護

森林の間伐による樹木育成

地域林業の活性化

北海道の森林面積：554万ha（2019年度）
 間伐面積：4.4万ha（2018年度）

鹿肉業者捕獲 ⇒ジビエへの使用



間伐材のCLTへ再利用



防雪柵の防雪板に活用によるCLTの土木構造物への普及

道ナビアプリへの適用により、道路管理者、維持業者、鹿肉業者へ送信。LINEの活用により一般人、や観光用としてディア(鹿)ウォッチング情報提供



2020年から鹿の繁殖により70万頭に増加。



野生生物との共存

森林大国の強み

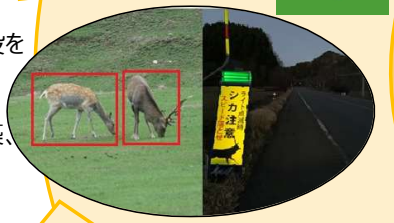


北海道
 エココンストラクション
 自然共生社会
 循環型社会
 低炭素社会の実現



シーニックバイウェイ景観型防雪柵

AI鹿認証画像センサーによる道路付近出没をリアルタイム画像送信システムの構築、また走行中のドライバーへの注意喚起



IoTの活用



交通事故削減



ゼロカーボン

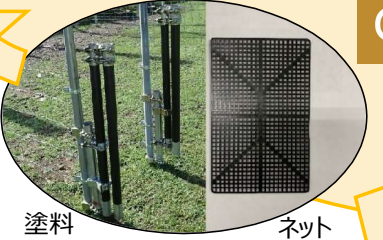
気候変動によるヒートアイランド現象の課題



道路附属物の色彩の候補色であるダークグレーを採用

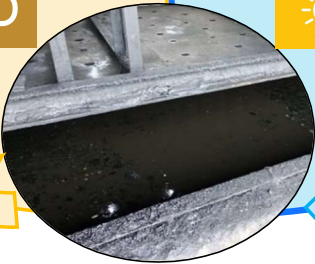
既設動物侵入防止柵を活用して忌避材を設置しロードキルの防止

既設動物侵入防止柵の活用によるコスト削減



塗料 ネット
 木タール鹿忌避材への活用

木タール排出量（下川森林組合）年間480kg
 （炭1tあたり20kgの木タールが発生し、年間24tの炭を生産するため20×24=480kg）



バイオマス発電により排出される産業廃棄物である木タールやフライアッシュの活用

産業廃棄物の削減、リサイクル、及び鳥獣被害対策による生態系の保全



CLT木材防雪柵への活用終了後は木質バイオマス発電への再利用チップ化

カーボンニュートラルの推進

支柱は溶融亜鉛めっきを必要としないステンレスフレーク塗装でメッキ工場の24時間稼働を短縮

シーニックバイウェイ自然環境との調和色彩

二酸化炭素の排出量削減